東友会、しだれ梅寄贈

東濃信金の研修施設で植樹



しだれ梅の植樹式に臨む渡邉勝利会長（右）と加知康之理事長＝多治見市虎渓山町、とうしん学びの丘エール

東濃信用金庫（多治見市）が昨年度迎えた創業100周年を記念して、同信金のOB・OGでつくる「東友会」がしだれ梅を寄贈し、6日に同市虎渓山町の研修施設「とうしん学びの丘エール」で植樹式が開かれた。

しだれ梅は高さ2・3メートル、幹回り15センチ。2月下旬から3月初旬にピンク色の花を咲かせる。敷地内の慰霊碑前に植えた。職員が付けた美濃焼の100周年バッジを再利用して、モザイクタイルアートで梅花をかたどった樹名板も設置した。

式では、渡邉勝利会長（84）＝可児市広見＝が「梅は100年は持つ木であり、100周年の記念として人材育成の場にふさわしい。東濃信金の発展に貢献できれば」とあいさつ。加知康之理事長は感謝し「100周年を迎えられたのは先人、OB、OGのおかげ。梅を見ると次の100年に向けバトンをつながなければと強く思う」と話した。（小森直人）

無断複製・転載を禁じます